

研究課題名	女性診療科癌患者のライフワークを考慮したクリニカルパスの導入
研究の意義・目的	<p>女性診療科で化学療法を受ける方は、妻・母・仕事など社会的役割と治療の両立を余儀なくされていると推測されます。一方で当診療科は治療の安全性を考慮し、入院期間が長いという特徴があります。このような現状から、長期間の入院は患者様のライフワークに大きな影響があると考えています。</p> <p>私たちの考える本研究におけるライフワークとは、「患者様が自分にとって大事にしたいと思っていること（社会的役割や生きがいなど）に取り組むこと」と定義し、ライフワークと治療の両立を考慮した入院計画を検討したいと考えました。</p> <p>当診療科で最も入院期間が長い抗癌剤のスケジュールであるイリノテカン・シスプラチン（・ベバシズマブ）療法は、1クールが10日間と3日間の2回で計13日間の入院期間でした。抗癌剤の入院基準の入院期間（約5日）を参考に、入院期間を短縮したクリニカルパス（入院から退院までの治療・検査のスケジュールに沿った入院計画セット）を作成しました。入院期間短縮をすることにより、心配される有害事象の対応についての退院指導を取り入れました。その使用状況と診療にかかる医療費の比較、有効性を検討し報告します。</p>
研究を行う期間	2022年9月～2022年11月
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2020年4月～2021年11月の期間にシスプラチン＋イリノテカン（またはベバシズマブを追加した3剤）で治療を受けた女性診療科がん患者様
研究に使わせていただく試料・情報等について	疾患名、年齢、入院日数、入院中の副作用の有無、入院費用、退院後に予定外の入院となった回数等の情報についてのデータを使用させていただきます。データは数値化し個人を特定することはありません。データは厳重に保管し、研究者以外に閲覧できないように管理します。またデータは、研究以外に使用せず学会発表後に全て破棄させていただきます。
試料・情報の他機関への提供	この研究は17東病棟女性診療科で行われます。研究で得られた結果は学会発表で使用しますが、個人を特定することはありません。
研究結果の公表	2022年11月12日（土）日本クリニカルパス学会学術集会にて発表いたします。
研究代表者（データ管理責任者）	大阪公立大学医学部附属病院 17東病棟（女性診療科） 稲盛 遥
共同研究者	阪本麻衣、堀内美郁、 風美緒（看護主任）、今崎由起子（師長）

(人を対象とする看護系研究に関する情報公開)

研究に協力を したくない場合	研究対象になられる方で、データ協力を辞退したい場合、質問がある場合は、下記連絡先までご連絡をお願いします。できるだけ早急に対応させていただきます。なお申し出をいただいた場合でも患者様の治療や療養に不利益を被ることはありません。
連絡先	大阪公立大学医学部附属病院 17 東病棟（女性診療科） 電話：06-6645-3170